杉山 真央 Sugiyama Mao

教員の教育・研究活動報告

役職／職名	外国語担当専任講師	所属	言語教育開発センター
ふりがな	すぎやま まお	生年	1986年
学歴	大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了		
学位	博士 (言語文化学)		
研究分野	文体論，テキストマイニング，政治ディスコース、コーパス言語学		
研究テーマ	ロシア大統領のスピーチスタイル、ディアスポラ・メディア		

主な研究業績

著書

題名	単・共	発行日	発行所名	備考
『「近代化」の反復と多様性 - 「東と西」の知の考古学的解体』伊勢芳夫(編)	共	2021年6月	溪水社	第9章：ロシアの「東」と「西」pp.330-pp.379 (全424頁)
翻訳(共訳)：ゾーヤ・モルグン『ウラジオストク 日本人居留民の歴史 1860～1937年』	共	2016年7月	東京堂出版	（翻訳頁：第2章 pp.117-142）（全 320 頁 ） 共訳者 ：有宗昌子，伊賀上菜穂， 五十嵐徳子， 内山ヴァルーエフ紀子， 杉山真央，松本かおり 道上真有，藤本和貴夫，山下丈夫，ヨコタ村上孝之 (五十音 順)

学術論文

題名	単・共	発行・発表日	発行雑誌又は発行学会等の名称	備考
満洲国における邦・露字新聞・雑誌の記事に見られる事件・犯罪の比較検討 -1933年「カスペ事件」の場合-	単	2015年3月	大阪大学	修士論文
President under the Eyes of the Russian Media: The Stylometry of Russian Presidential Addresses and Their Media Coverage	単	2019年3月	大阪大学	博士論文
新年の挨拶から見るロシア大統領の一人称代名詞の使用	単	2015年5月	電子化言語資料分析研究『言語文化共同研究プロジェクト：2014』	
ロシア大統領の年次教書：エリツィン大統領からプーチンまで	単	2016年5月	電子化言語資料分析研究『言語文化共同研究プロジェクト：2015』	
雑誌『ルベーシュ』に見られるЯпония(ヤポーニヤ)とНиппон(ニッポン)の呼称変化について	単	2017年3月	ハルビン・ウラジオストクを語る会『セーヴェル』33号	査読有
How do candidates convey their ideas? Strategies used by U.S. presidential candidates in their speeches	共	2017年	English Corpus Studies 24	査読有 木山直毅氏と共著
Стратегические выражения журналистов о ежегодном послании президентов России Федеральному Собранию:Сравнение с заголовками в печатных газетах	単	2018年5月	テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ『言語文化共同研究プロジェクト：2017』	
How did the Russian Press Report Russian's First President: Comparing the key Words between Yeltsin's addresses and the Press	単	2018年5月	テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ『言語文化共同研究プロジェクト：2017』	
ロシア年次教書演説における「問題」の表象 -3単語のコロケーション分析-	単	2019年3月	コーパスと文体論のインターフェース2018	査読有
The Role of Words in the Program "Direct Line with Vladimir Putin	単	2019年5月	テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ『言語文化共同研究プロジェクト：2018』	
スターリン演説の影響力 -1941年の聴衆への感情誘導	単	2024年7月	ハルビン・ウラジオストクを語る会『セーヴェル』40号	査読有
詩に表象される情動と記憶 ―『ルベーシュ』1940年詩篇にみる共同体の語り―	単	2025年5月	ハルビン・ウラジオストクを語る会『セーヴェル』41号	査読有
亡命主体の可読性 ――バフチンの対話性理論による『Рубеж』1940年前半ネスメーロフ詩の分析	単	2026年5月	ハルビン・ウラジオストクを語る会『セーヴェル』42号	査読有
QDAコーディングデータのネットワーク可視化 ―ネスメーロフの1940年『Rubezh』掲載詩を事例として―	単	近刊	言語文化共同研究プロジェクト / テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2025	

学会発表等

題名	単・共	発行・発表日	発行学会等の名称	備考
The changing appellation of "Japan" in Russian magazine "Rubesh" in Harbin	単	2014年9月	Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014	発表時査読有
Comparing Addresses of Russian Presidents in Inaugural Ceremony: A Text-mining Approach	単	2015年9月	Japanese Association for Digital Humanities Conference 2015	発表時査読有
『カスペ事件』からみる邦字・露字新聞の報道比較 – 在満ユダヤ人の描写について-	単	2015年11月	ロシア東欧学会・JSSEE2015年合同研究大会	発表時査読有
Diachronic changes of the Russian Presidential Addresses to the Federal Assembly: From the perspective of archetype key words	単	2016年7月	Digital Humanities Conference 2016	発表時査読有
アメリカ大統領選挙候補者の特徴 –語彙使用に見る候補者のキャリア	共	2016年10月	英語コーパス学会第42回大会	発表時査読有 共同研究　木山直毅氏
How Russian presidents' agenda has changed over the last two decades	共	2017年12月	Österreichische Linguistiktagung 2017	発表時査読有 共同研究　木山直毅氏
What the First President said and how journalists understood his words: Comparing the usage of key words from Yeltsin's presidential addresses	単	2018年7月	International Quantitative Linguistic Conference 2018	発表時査読有
What did Journalists Mention in the Russian Press?: Comparison of Articles about Yeltsin's Presidential Addresses to the Federal Assembly	単	2018年9月	Japanese Association for Digital Humanities Conference 2018	発表時査読有
プーチン大統領の戦勝記念日演説にみられる "мы (we)" と "вы (you)"	単	2023年9月	英語コーパス学会第49回大会（30周年記念大会）	発表時査読有
大祖国戦争の記憶の形成と感情：プーチン戦勝記念日演説にみる人称代名詞	単	2024年10月	英語コーパス学会第50回大会	発表時査読有
The Structure of Homeland Metaphors in White Émigré Poetry in 1940 "Rubezh"	単	2025年1月	International Conference on Humanity and Social Sciences 2025	発表時査読有

主な教育上の業績

作成した教科書

教科書名（対象講義名）	単・共	年月	備考
Listening Tips リスニング力UPのためのポイント20	共	2024年	
ロシア語はじめの1000語	共	2026年	

所属学会

所属学会名称

所属学会名称
ロシア東欧学会
日本ロシア語教育研究会
英語コーパス学会

科学研究費等外部資金採択実績

名称	題名	機関名（採択時）	年度	備考
科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）	ロシア年次教書におけるロシア大統領のスピーチスタイル	大阪大学	2017年4月- 2019年3月	
公益財団法人村田学術振興・教育財団 人文科学	亡命ロシア人誌『Рубеж（ルベーシュ）』の言語分析：満洲国における白系ロシア人のナショナル・アイデンティティと情動の変遷	名古屋外国語大学	2024年8月 - 2025年7月	
2025年度若手研究者奨励金	満洲国におけるソ連・白系ロシア人の表象	名古屋外国語大学	2025年5月 - 2026年4月	
学術研究助成基金助成金 若手研究	ディアスポラ共同体の文化的記憶	名古屋外国語大学	2026年4月 ― 2030年3月	